

三島駅南口周辺開発 地下水対策検討委員会

第3回検討会

- 施設計画・施工体制 -

平成29年10月24日(火)

目次

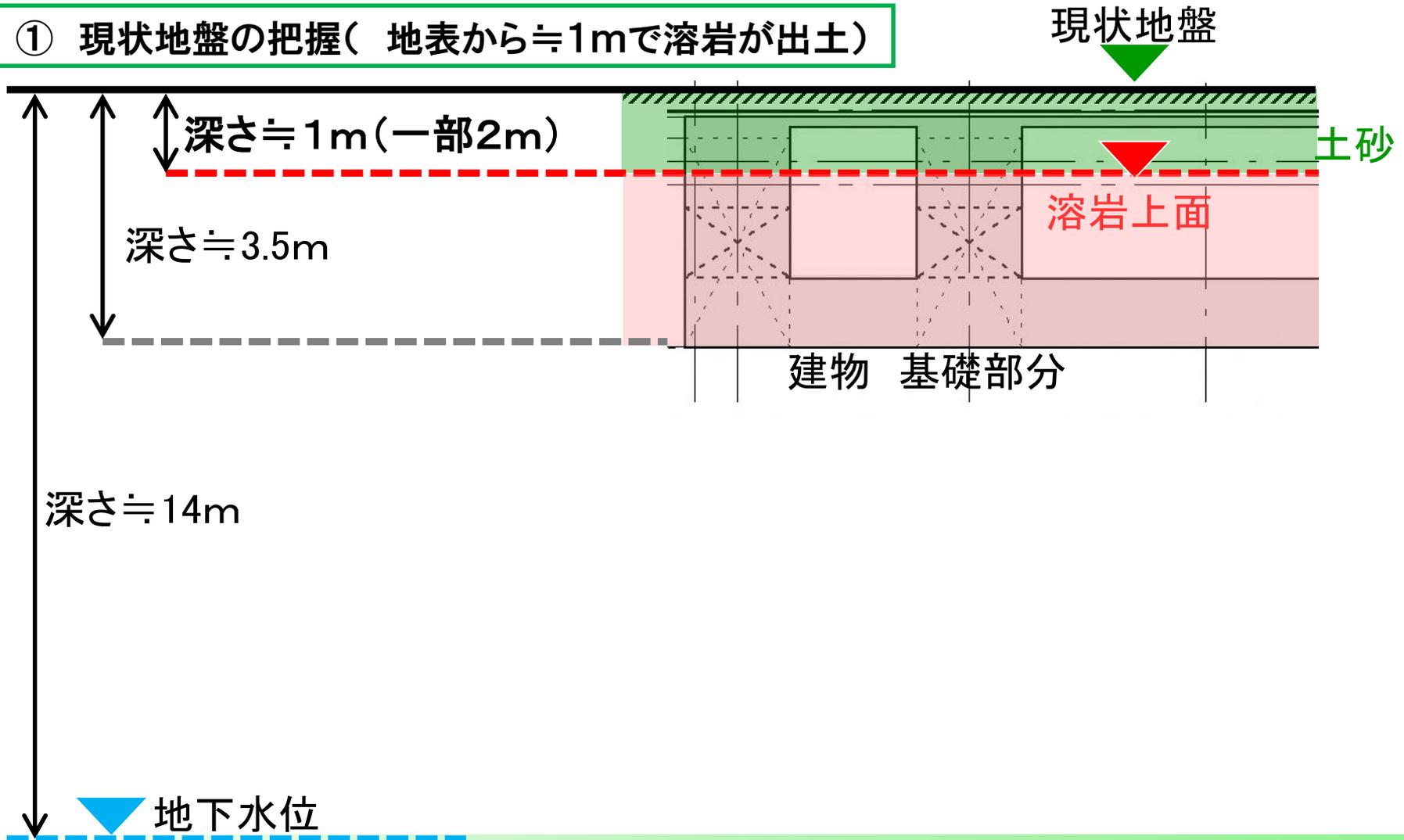
<u>1. 施設計画</u>	・・・P2
<u>2. 施工体制</u>	・・・P9

1. 施設計画

1. 施設計画

(1) 山留工法選定と地下水対応について

① 現状地盤の把握(地表から≒1mで溶岩が出土)

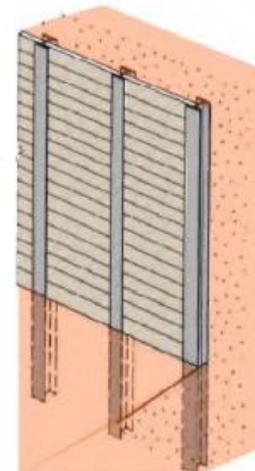


1. 施設計画

(1) 山留工法選定と地下水対応について

②-1 工法の概要(地盤改良工法採用の理由)

《当初想定》親杭横矢板工法の採用



親杭横矢板壁

敷地内5か所にてボーリング調査を行った結果、土砂層が想定より薄く(1m)、土圧が小さいことが判明



より地下水への影響の可能性が低い山留工法の採用

.....次ページ参照

斜面(法面(のりめん))を造る
地盤改良(セメント紛体使用)、などを想定

1. 施設計画

(1) 山留工法選定と地下水対応について

②-2 工法の概要(上部の土砂範囲の対応方法)



斜面(法面)を造る



地盤改良(粉体)

隣地・敷地境界との距離が無かったり、斜め勾配を取ると隣地の地盤に影響が出る恐れがある場合



粉体(セメント系地盤改良材)を使用して地中の水分と反応させ強度を確保する地盤改良を採用

※ 一般的な道路工事でも使用

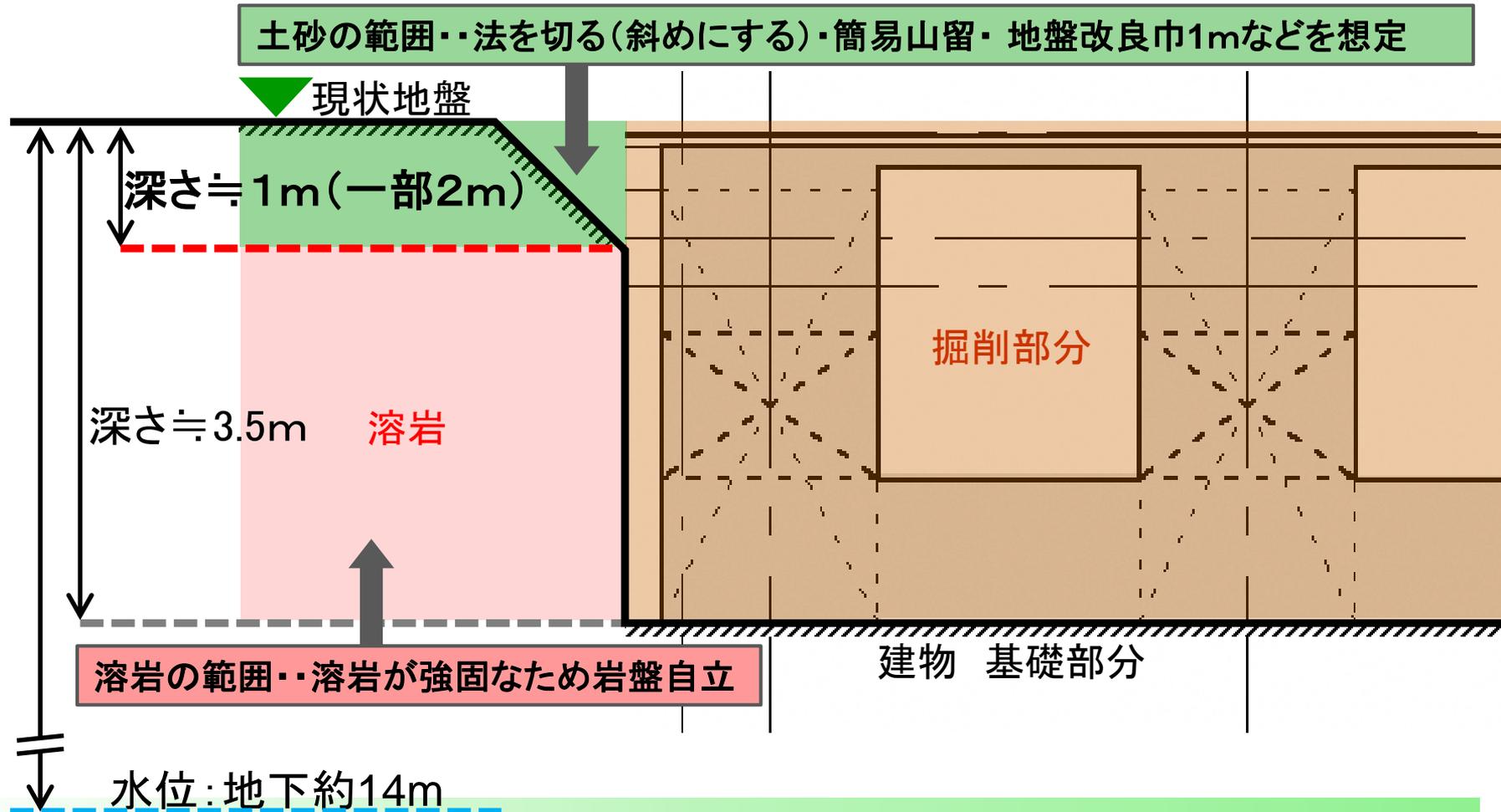
セメントが液状とならないため土中に流出しにくい。また、地表より1m(一部2m)で施工する為、地下水までの距離が確保でき、影響が小さい。

* 降雨時の対応として、ブルーシート等の養生を想定

1. 施設計画

(1) 山留工法選定と地下水対応について

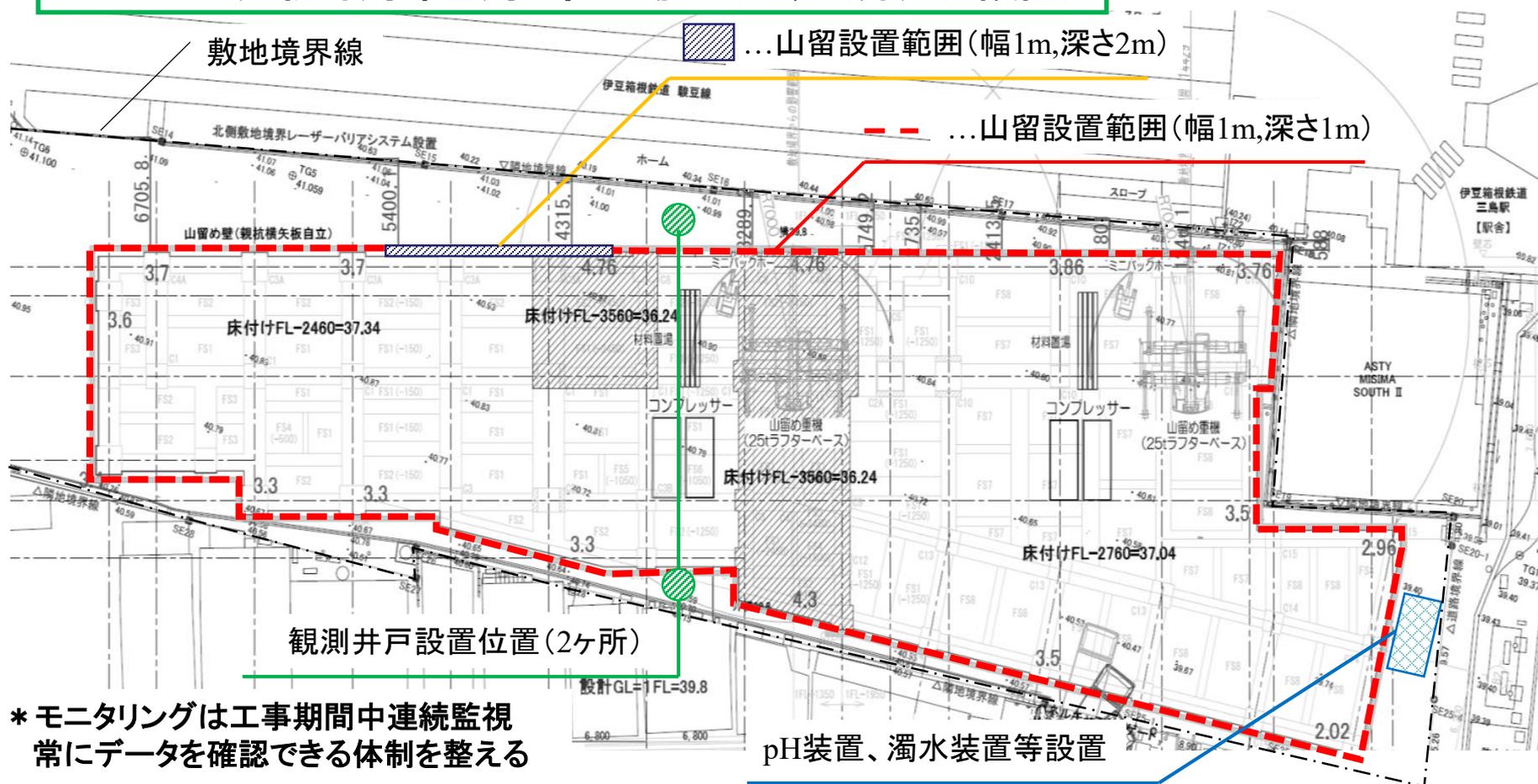
②-3 工法の概要(深部は溶岩自立で山留)



1. 施設計画

(1) 山留工法選定と地下水対応について

③ 山留(地盤改良)が必要となりうる範囲・観測装置 (建物外周部全周 巾1m施工)(観測井戸他設置)



* モニタリングは工事期間中連続監視
常にデータを確認できる体制を整える

1. 施設計画

(1) 山留工法選定と地下水対応について

④ 地下水対策(影響の少ない工法・監視対応実施)

影響の少ない工法

- 紛体使用地盤改良にて、土中への影響を最小限に抑える工法
- 仮設構台は、杭を設置しない土中影響の無い工法



監視対応

- 地下水の監視は、観測井戸を2ヶ所にて測定監視
- 現場の溜まり水は、pH中和装置等にて監視、汚れの無い状態に処理します。



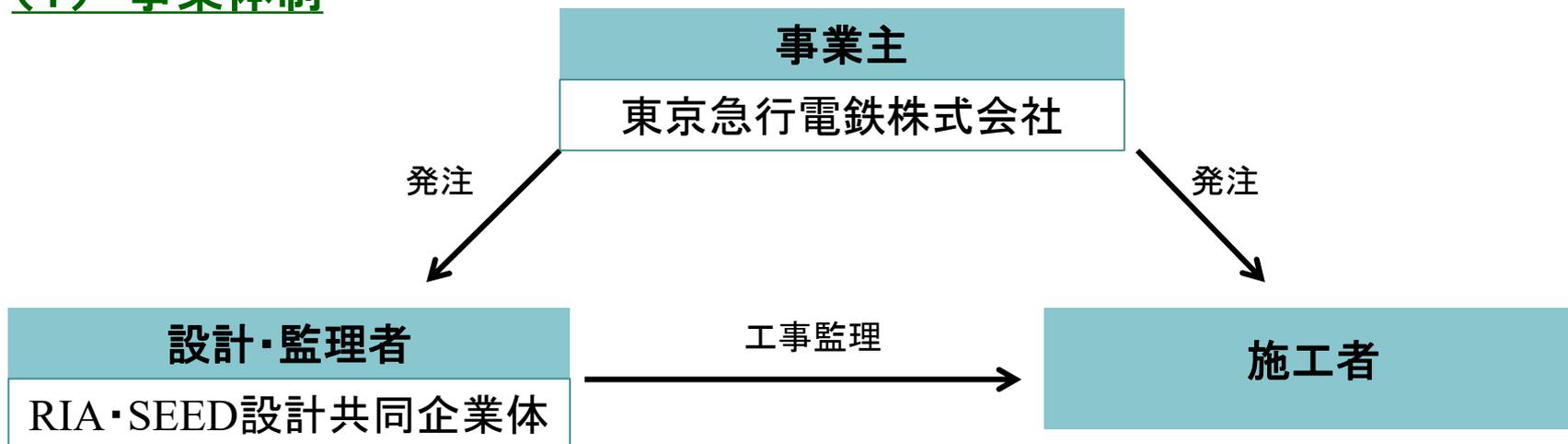
万が一、監視測定で異常値が発生の場合

➡ 工事を中断して原因究明、対応策を講じます。

2. 施工体制

2. 施工体制

(1) 事業体制



(2) モニタリングフロー

